

# 第6回全国校区・小地域福祉活動サミット in KOBE・ひょうご

(平成25年1月12日開催)

## 平成24年度 地域の福祉力セミナー

(平成25年1月13日開催)

### 【報 告】



# 1 第6回全国校区・小地域福祉活動サミット in KOBE・ひょうご

開催日時 : 平成25年1月12日(土) 10時30分~17時45分

開催場所 : 神戸国際展示場・神戸学院大学ポートアイランドキャンパス

## (1) 基調講演

演題「つながりがひらく未来 ~社会の価値観に挑む~」

2008~09年年末年始「年越し派遣村」村長 元内閣府参与

反貧困ネットワーク 事務局長

NPO 法人自立生活サポートセンター・もやい 理事 湯浅 誠

### 【メモ】

#### ◆福祉分野に関わっている人は、「富」をもたらしている

隠れた「稼ぎ頭」 → 世の中全体に「富」をもたらす



(例1) 兄の事例について

- 兄(障害者46歳)
- ・社会福祉法人の施設で25年働いている
  - ・兄の生産性は普通の人のおよそ1/10かもしれない
  - ・障害年金(月8万)
- 社会的にはマイナス!?

もし仮にやめることになったら…(社会参加する場所がなくなったら…)

- ・健康面 … 調子が悪くなるだろう
- ・精神面 … 今よりこじれるだろう(容易に想像できる)

↓ 兄が悪くなったら…  
母が影響を受けるだろう

- ・プロの人に教わりながら社交ダンスを地域の人に教えている  
(社交ダンス…ドレス、講師料、終了後の喫茶などがある)
- それもできなくなる  
(実用的な支援が必要になり、気兼ねもある)

↓ 2人とも疲弊してくる

家族である私に「あんた何とかしなさい」となることが想像できる

- ・私の活動が制限される、できなくなる

つまり、ドミノのように影響していく

- さまざまな活動の停滞が社会全体に波及していく
- 消費活動も停滞する



これは **社会から「富」が失われる** ということにつながる

- ・ 兄だけをピンセットでつまみあげることはできない
- ・ 社会福祉法人の施設は兄を支えることを通じて、私を支えてもらっている → 支え合う社会

(例2) 自殺者について

- ・ 1998年 3万人超 → 2012年 3万人切った

- - ・ 自然に減ったわけではない
  - ・ 景気がよくなっているわけではない
  - ・ 病気になる人は増えている

なぜ!?



そのような活動を続けている人が工夫を積み重ねてやっているから減ってきている

- ・ 毎年3万人亡くなっている
- 2010年厚生労働省試算で「2.7兆円の損失」



**暮らしや命を支えてきた人がたいへんな「富」をもたらしている**

ひとりの人が親しい親戚 = 5~6人 → 約200万人に影響

- ・ 東日本大震災「もうちょっとできることがあったのではないか…」  
サバイバーズ・ギルト (survivor's guilt)

→ 戦争や災害、事故、事件、虐待などに遭いながら奇跡の生還を遂げた人が周りの人が亡くなったのに自分が助かったことに対して、しばしば感じる罪悪感のこと

- ・ 自殺 2つのキーワード

「ごめんね」… 亡 → 遺族へ

「まさか」… 遺族が言われる言葉

(例3) 「年越し派遣村」炊き出しについて

Q1 なぜ炊き出しをするのか？

A1 食べものがないからではない

- ・ 交流するため
- ・ 話ができる関係がつくれる
- ・ ニーズが分かる (自分たちがこういうことで困っている)



Q2 炊き出しの方法は？

- ① 支援者がつくって配る
- ② 支援者につくってもらう (自分たちで頑張ってもらう)
- ③ 手が足りないから手伝ってくれという

A2 ③手が足りないから手伝ってくれという

- ・ 一緒に調理し、一緒に片づける
- ・ 「あげる人」「もらう人」では上下関係が生まれる
- ・ 理想な状態 = どっちが支えているか分からなくなる
- ・ 遠慮がなくなる
- ・ 本心を明かしてくれる

↓ 「隠れた稼ぎ頭」

**関係をつくれるノウハウをもっている = 「富」をもたらす**

- ・ 対応力が増える → 社会の安心感につながる  
「どんと構えられる社会・地域」
- ・ 自分のダンスの中の中身 (ノウハウ) を増やすこと → 「豊かになる」

(例) 東日本大震災「心のケア」

(被災者された方に) 言ってもらえるような条件をつくって  
いかないといけない → それが力量

「心のケアをやります」と言っても人は集まらない

↓  
「血圧測定をやりますよ」…どうやって？

- ① 指先だけで分かる機械
- ② 腕を入れる機械
- ③ 手動で空気をおくるもの → ③ 話す時間が生まれる  
→ 関係が つくれる → 心のケアにつながる

(2) シンポジウム「二つの大震災と地域の未来」

細田・神楽まちづくり協議会（神戸市長田区） 会長 野村 勝  
NPO 法人かなで デイサービスセンター奏（兵庫県宝塚市） 施設長 福住 美寿  
応急仮設住宅 箱塚桜団地自治会（宮城県名取市） 会長 大脇 兵七

【メモ】注）基本的に冊子に沿っての説明（p.18～31）

・連携を考える

連携にすることによるメリット	連携を妨げるもの
①情報・目的・課題が共有できる	①ボス意識（自己主張） ＝自分の意思を曲げない
②知識量が増える	②なわばり意識
③交流ができる	③主体性がなくなる（人・物・金）
④無駄がなくなる	④情報が入らない
⑤生活が豊かになる	⑤人材が育たない
⑥各種団体との合意形成が取りやすくなる	⑥制度の縦割り
⑦地域の良さを発見できる	⑦大げさになる
⑧互いに知ることができる	⑧仕事が増える
⑨役員の意味統一	⑨団体の自主性がなくなる
⑩自分を変えられる	
⑪共助の源（協力体制が取れる）	

・いざ！という時 → 普段していることしかできない

・コミュニティの大切さ = 空気に似ている

→ 空気が薄くなって初めて分かる

・「連携」「協働」「助け合い」「支え合い」

→ ひとりでできたわけではない

たくさんの人がつながっている

コミュニティ = つながっていくこと



・どんな人の中にも地域の中で役立ちたい気持ちを持っている

くすぶっていたり、気づかなかったり…

(3) 分科会⑩「震災から育む地域のチカラ」

【メモ】注) 基本的に冊子に沿っての説明 (p.262~277)

①「つながり支え合う地域づくり」NPO 法人福祉ネットワーク西須磨だんらん

- ・ 小地域 = 自転車で行ける距離
- ・ 震災後、高齢者を見守ることが必要 → 高齢者についての学習会を開催
- ・ 年1回の活動を月1回に
- ・ 在宅支援サービス (有償ボランティア活動)
  - 利用者負担 1,000 円
  - ワーカー支払い 700 円 (300 円が事務局へ)
  - ワーカー定例会を月1回実施
  - ワーカー (活動者) が増えないことが課題

②「震災から学び、地域の力を育むまちづくりへ」

西宮市社会福祉協議会 東山台分区

- ・ あ いさつは
- い つでも
- さ きに
- つ いでに話も
- ・ 仮設入居者支援体制 → はじめは3人の民生委員による訪問活動
- ・ 仮設入居者の意欲を引き出す支援
  - 自治組織の協議会の重要性 (要望活動ができる)
    - 回覧の仕組みや見守り班の設置
    - 移動販売車による食料の販売
    - バスの運行開始
- ・ 住民間及び多様な人々とのつながりづくり
  - ボランティア団体、周辺地域住民など
- ・ 平成17年に地区社協が社会福祉法人をとって保育園を運営



③「震災をきっかけに立ち上がる地域のチカラ」 室津地区社会福祉協議会

- ・ 震災直後の水と電気がつながらない状態がどういったものか  
→ まず、トイレの汚物処理
- ・ 避難所運営 … 早く仕切れる人がいること
- ・ 敬老会 … 行けない人に参加してもらうのが本当の「敬老会」では！？
- ・ 後継者の育成 … 熱い心のもった人、心のつながったリレーができれば

④「復興公営住宅の「地域のチカラ」を支えるLSA活動」南芦屋浜復興公営住宅

- ・ L S A = Life Support Adviser  
(ライフ サポート アドバイザー = 生活援助員)
- ・ 高齢者の生活を支える(働いている人)
- ・ 仕事の内容は、人やタイミングによって異なる
- ・ 東京・神奈川・兵庫などの復興公営住宅に配置
- ・ 表に出ることが少ないかも
- ・ 1980年代から整備
- ・ 数は少ない
- ・ 芦屋市は24時間対応



⑤「阪神・淡路大震災 そのとき私たちに何ができたか？」

全国心臓病の子どもを守る会兵庫県支部

- ・ ニーズのすい上げをどうするか？
  - ・ どうやって顔の見える関係づくりをつくっていくか
  - ・ 人間関係に苦しむことがあるけど、人間関係で救われる
  - ・ 地域の中で普通に生きていける社会(ノーマライゼーション)への思い  
→ なぜ普通に生きることが難しいのか？
  - ・ 60~70代まだまだ働ける(社会参加・貢献) → 年齢で決めない
  - ・ 元気な高齢者は今後増えていく → 活動の場を！
  - ・ 東北は、困っていることがバラエティに富んでいる → 心の充実を
  - ・ 地域の活動者を増やすために  
口に出すことが少ない → もっと“おせっかい”を  
“おせっかい”を支える → してもいいのかと思える人が増える  
「声をかける」…100人に声をかければ1人は当たりがあるかも  
同じことをしていたら発展はない。新しいことで楽しいことを！
-

## 2 平成 24 年度地域の福祉力セミナー

開催日時 : 平成 25 年 1 月 13 日 (土) 10 時 00 分~15 時 30 分

開催場所 : 神戸国際会議場

### (1) 基調講演

演題「“地域の福祉力” と社会福祉協議会の役割」

日本福祉大学 准教授 原田 正樹

#### 【メモ】

##### ◆人口減社会をどう考えるか…

2007 年 1 億 2,000 万人 (人口のピーク)

2055 年 8,000 万人 (1950 年代と同じ人口) → 1/3 減少していく

40 年後をどう考えるか → 生活様式をどう変えていくか

ドイツ 8,000 万人

イギリス・フランス 6,000 万人

スウェーデン 1,000 万人

でも、やれている

2025 年 団塊の世代 → 75 歳以上に

高齢化率 30% 超 → 遠くない将来必ず迎える

##### ◆今後、東京や神奈川、大阪で高齢者の増加が予想される

山梨県のある老人ホームでは空きが出てきている

→ どう首都圏に進出するかを考え出している

「介護」= 地方の問題から都市部の問題へ

大都会の介護問題がこれからの課題

→ マーケットが激しくなる

株式会社等の参入が予想される (サービスの奪い合い)

##### ◆地方が抱える諸問題

過疎化・少子高齢化

過疎地域でも人間関係の希薄化

都会 … 人間が集まればサービスが集まる

→ お金があれば人間関係が希薄でもサービスを受けられる





- ◆「限界集落」 高齢化率 50%以上  
生活機能を維持できない  
集落のターミナルケア（終末期対応）  
→ 集落が閉じていく（1.2億→0.8億）

- ◆「集落」が壊れていく（集落の解散、閉村）

- ・ 地域の中から挨拶がなくなった  
→ 40年前くらいから声が消えた
- ・ 地域の中が汚れてきた  
→ 道端にゴミが落ちていても拾わなくなった
- ・ 地域の誇りがなくなった  
→ 出身地が言えなくなった  
親が子に「このまちにはダメだ」



ちょっと変だと気がついたときに何もしなかった  
気づいていたけど時代のせいにして何もしなかった

- ◆地域再生の取り組み

徳島県上勝町 1,700人 いろいろ「葉っぱビジネス」

- 住民が指定された種類の葉っぱを早朝に拾い、その日のうちに  
京都の料亭などに運ばれるビジネス



ある程度の収益のしくみづくりを

地域の中で考えていくことも社協の役割

このまちには何もない…



何があるか？



「自然」しかない

社会福祉 = 困っている人のニーズに応えるだけでなく  
何かをしたい人に応えるのも「福祉」である

◆活性化している地域のしくみ

- ・住民の合意形成と協議の場づくり
  - 話し合いの場を大切にすること
  - みんなが少しずつ譲り合うという知恵
  - プロセスを大切にすること
  - そこに暮らしている住民のモチベーションをどう高めていくか
  - トップダウンではダメ
  - 多数決？合意形成とは…
  - 折りあいをつける、妥協する、最後はお互いに痛み分けをする
- ・住民の参加と学びの場づくり
  - 役割があること
  - 「きょういく」と「きょうよう」
  - これからの高齢者
  - 「今日行く」場がある 「今日用」事がある

◆活性化している地域のリーダー

- ・私たちのまちが好きになること
    - 「あれがない」「これがない」「何もない」ではなく
    - いいところ探しを
  - ・「専門職」 = 地域の課題を見つける
    - 強みも見つける、できることも見つける
    - (対人援助でもやっていること)
- ↓
- 定住意向につながる「あなたはここで暮らし続けたいですか？」
- 7割以上 うまくいく
- 3割以下 リーダーが何をやってもうまくいかない
- 定住意向をどう高めていくか
- ・地域活動の原体験をつくる
    - 子どもの時に地域のおじさん、おばさんにお世話になった体験
    - がないと大人になって地域の活動ができない
- ↓
- 「子どもに世話を焼く」ということは 20～30年後の地域活動につながる、活性化する

◆世帯構成の推移と見通し

- ・核家族の時代は終わった

→ 単身世帯を前提にどういう支援が必要かシフトしていかないと  
いけない

- ・「家族以外の人」と交流のない人の割合

→ 日本は、OECD の加盟国 20 か国中最も高い割合  
宗教や教会活動がないことは考慮しないとイケないが  
交流が少なくなっていることを実感してきている

- ・社会関係資本（ソーシャルキャピタル）

→ 人間関係を豊かにしていく取り組み  
つながりをどう再構築していくか、高めていくか  
社会関係資本が蓄積されている地域

犯罪発生率が少ない

悪徳商法の被害が少ない

出生率が高い

健康な人が多い（要介護者少）

災害時に強い

→ 口コミがあるか、すぐに地域に広がるか

◆地域包括ケアシステム 2025 年

ニーズに応じた住宅が提供されることを基本とした上で、生活上の  
安全・安心・健康を確保するために、医療や介護のみならず、福祉サ  
ービスを含めたさまざまな生活支援サービスが日常生活の場（日常生  
活圏域＝おおむね 30 分以内で駆けつけられるような範囲・小学校区程  
度）で適切に提供できるような地域での体制

- ・ 2025 年 団塊世代が 75 歳以上

- ・ なぜ 2025 年か？

どのくらいの介護サービス・介護保険料が必要か？

今と同じ水準ならば 4 倍になることが予想される

介護保険料 月 5,000 円→20,000 円 払えるか？

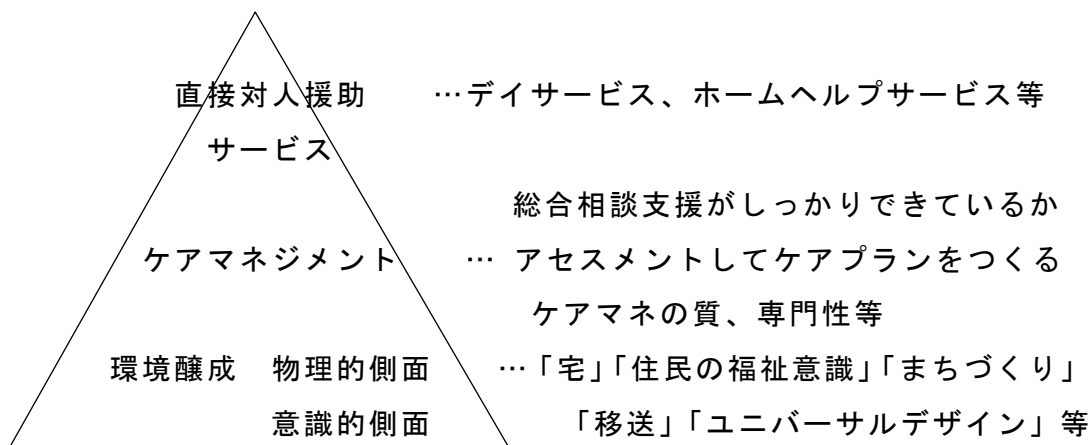
税：保険料＝5：5 今後は…？

- ・介護保険料がこの10年上がっているところ
  - 老人ホーム（入所施設）をつくり続けているところ  
待機者が多くいるが、本当に今必要な人は1~2割
- ・この10年間でどういう取り組みをしているかで変わってくる  
富山県氷見市 要介護3の認知症高齢者を地域で支えている  
生活支援ができるような地域づくり  
ケース検討会に住民に入ってもらおう  
Aさん・Bさんを支えていくためにはどうすれば  
いいか、成功体験をいくつか作っていく  
→ 地域が自信を持っていく
- ・家族の中で福祉体験ができなくなっている
  - 今は、病気や施設になっている  
「地区社協」という「うつわ」があるということは  
地域の福祉力を蓄積していく、貯めていくことにつながる

◆「介護の地域化」

制度だけでは支えきれない  
安心・予防・発見・豊かさ（生活の質）・協働  
支え合うことのできる「ケアリングコミュニティ」

◆地域福祉の総合性



- 2025年に向けてサービスが増える  
しかし、サービスだけが増えていくのでは…  
総合的に展開できる組織 = 社協のミッション

◆地域福祉推進の3つの要素

- ・ひとりひとりの暮らしを支える「サービス」
  - 24時間365日の安心安全（医療・住宅・権利擁護）
- ・連携による効果的な「システム」
  - 保健・福祉・医療・生活関連分野
- ・地域住民の学習と参加の「福祉意識」
  - 住民参加、ボランティア

◆社協・生活支援活動強化方針（平成24年10月29日）

- ・あらゆる生活課題への対応
- ・相談・支援体制の強化
- ・アウトリーチの徹底
- ・地域のつながりの再構築
- ・行政とのパートナーシップ

◆社協の存在理由は何か

- ・地域福祉推進の構成要素 → この3つを総合的に展開できるのは社協
  - 地域生活を支援する「サービス」
  - 効果的効率的に提供する「システム」
  - 住民の理解と合意による「福祉意識」

◆「住民主体」とエンパワメント

- ・住民主体を促すプロセス、学びを大切にする
  - 地域ぐるみの福祉の学び → 「社協がどうできるか」
  - 高齢者や障害者の福祉教育
  - +
  - ホームレスやゴミ屋敷の問題を子どもや地域にどう伝えていくか

◆これからの地域福祉援助の方向性

- ①点を点で支える援助から「点を面で支える援助」へ
  - ②面を面だけでとらえていた援助から「点を支える面をつくる援助」へ
  - ③福祉の枠だけでとらえていた援助から「ケアリングコミュニティをつくる援助」へ ※Aさん、Bさんの生活支援につながる面をつくる
-